

# CASBEE®新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

## 1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	(仮称)マルシェコートA 新潟県新潟市中央区上所3丁目 第一種住居地域、準防火地域 事務所、物販店、病院、 2019年4月 竣工 7,781.83 m <sup>2</sup> 1,988.15 m <sup>2</sup> 3,684.92 m <sup>2</sup> 地上2F S造 実施設計段階評価 2018年8月1日	
-------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

## 2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{44.3}{41.2} = 1.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

## 3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価アイコン	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.2		バリアフリー計画	Q2.1.1.3 3.0
			維持管理	Q2.1.3 4.0
			設備の更新性	Q2.3.3 2.6
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	2.8		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1 3.0
			信頼性	Q2.2.4 2.6
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1 3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1 5.0
			自然エネルギー利用	LR1.2 3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.7		節水	LR2.1.1 4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4 5.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6 5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	2.0		生物環境の保全と創出	Q3.1 1.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2 3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	4.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2 4.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1 4.0

## 4. 新潟市の重点項目の配慮事項

長寿命化の取組み: 建築物移動等円滑化基準を満たし、維持管理に配慮した内外装材を採用。  
 大雨への取組み: 開発エリアで雨水流出を抑制。  
 自然エネルギーの取組み: 断熱性能を向上させ、建物外皮の熱負荷を抑制。  
 資源循環の取組み: 自動水栓や節水型の衛生器具を採用。各所にリサイクル材を採用。  
 水と緑を活かす取組み: 敷地境界沿いに緑地帯を確保。  
 新潟のまちなみへの取組み: 開発エリア全体でデザインを統一し、新たにまちなみを形成。

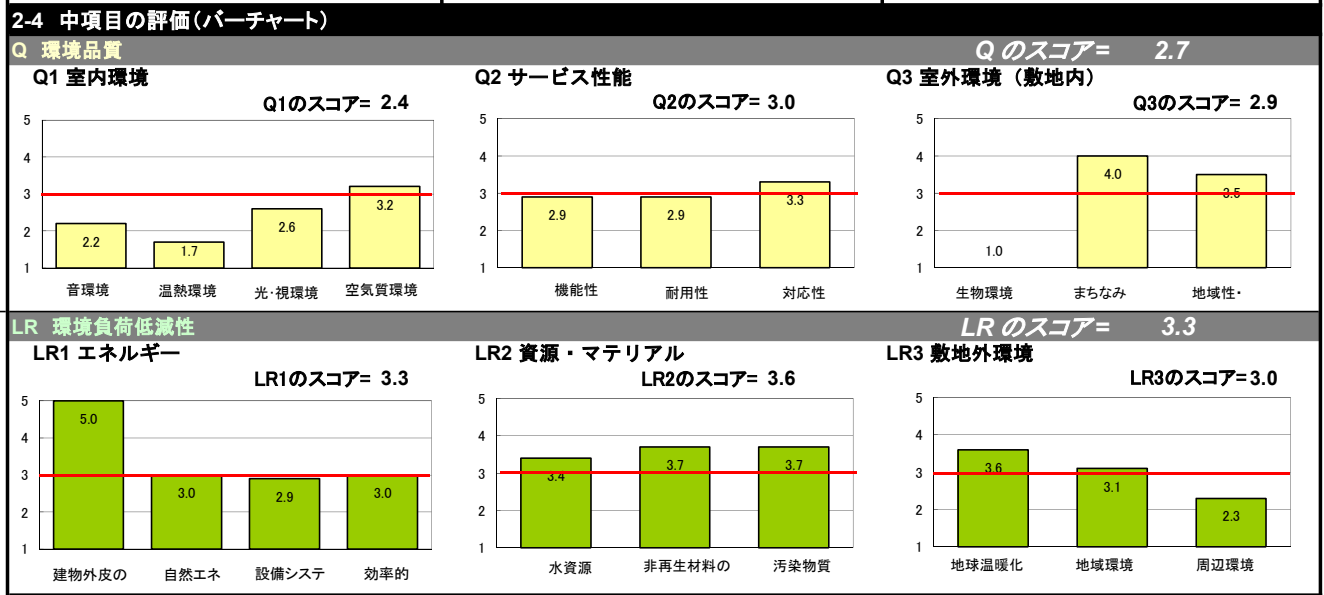
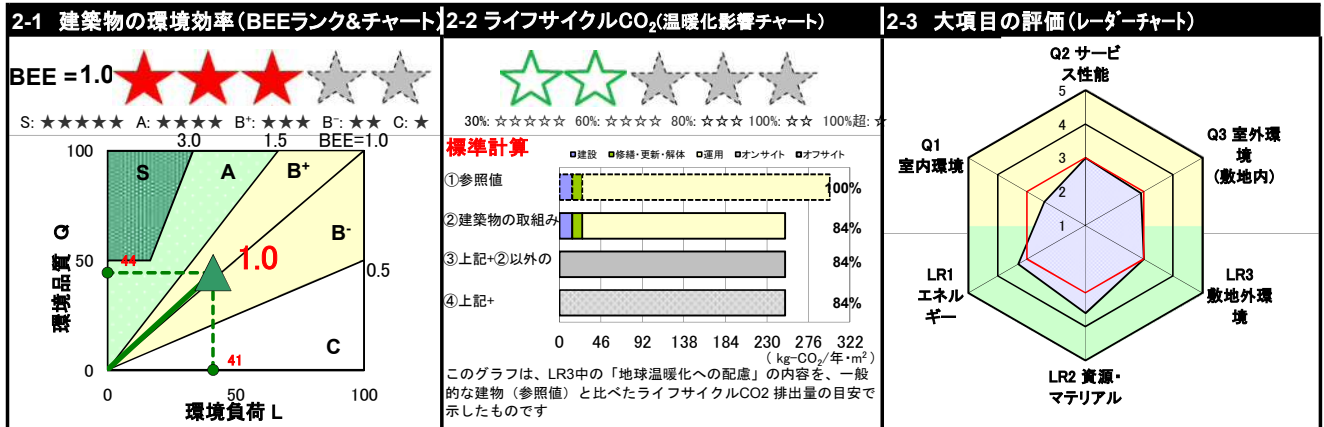
# CASBEE<sup>®</sup>新潟

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)マルシェコートA	階数	地上2F
建設地	新潟県新潟市中央区上所3丁目	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	0人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店、病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年4月 竣工	評価の実施日	2018年8月1日
敷地面積	7,782 m <sup>2</sup>	作成者	風間
建築面積	1,988 m <sup>2</sup>	確認日	2018年9月7日
延床面積	3,685 m <sup>2</sup>	確認者	風間

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください



3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>開発エリア全体で統一した建物デザインとバリアフリー化、キッズスペースや共用スペースを設け、子供からお年寄りまで、どの世代でも安心して利用できる空間創りを目標とした。</p>		<p>その他</p> <p>0</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>1階(物販店舗)と2階(事務所・診療所)で用途と利用者が異なるため、それぞれの出入口を設けた。特に界床はコンクリートスラブ面積を30㎡に抑え、かつ、フローアを採用し、遮音性能の向上に努めた。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>建築物移動等円滑化基準を満たすとともに、イートインスペースなどの共用スペースを充実させ、利用者の利便性向上に努めた。共用部の内装については維持管理がしやすい材料を採用した。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>周辺道路が渋滞等で迷惑がかからないように十分な駐車場を確保しつつ、可能な限り敷地周囲の緑化を図り、植栽による景観形成に努めた。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>外皮の断熱性能を向上させ、建物外皮の熱負荷を抑制するよう努めた。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>省水型の衛生器具を採用、リサイクル材の採用により、資源の保護に努めた。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>開発エリア全体で雨水流出抑制の実施、駐車場や廃棄物保管場所の確保等により地域インフラの負荷抑制に努めた。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される